



わたげの裏玄関のガラスふき取り組み中！ 裏玄関って意外に使うんです！！



ガラスの中央部分は拭いてくれますが・・・



窓幅に合わせたボードを使って、窓の下まで視線がいくように座ることで、隅々まできれいに拭いてくださっています！

目次

- ・ 法人理事から新年度のご挨拶 <2ページ>
- ・ 「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 53」
～利用者主体の支援を目指す～ <3～5ページ>
- ・ 後援会のご案内・2019年度決算報告・編集後記（編集部） <6ページ>

【新年度にあたり 法人理事からの皆さまへのご挨拶】

理事 後藤博行

皆様には、日頃よりたいへんお世話になり、ありがとうございます。理事の後藤博行です。通常は、生活介護事業所わたげの施設長として、皆様とお会いする機会が多いと思います。年度初めの広報誌には、理事からのご挨拶を掲載するというので、今年度は、私からお話させていただきます。

今年も、わたげの敷地に、竹の子が顔を出し始めました。利用者の送迎で通る道に咲く桜は、例年より早く咲き出し、ずいぶんと長く咲き続け、もう、だいぶ散りかけています。その花びらが、風に吹かれて、あたり一面に舞い、日本らしい趣のある風景を醸し出しています。利用者に、竹の子ご飯を味わってもらおうと、地面を掘るたびに思うのは、自然の営みは凄いなということです。毎年、毎年、淡々と、変わらずに、自分に与えられた使命を果たしているように感じます。自らも、こうありがたいものだと感じます。

さて、当法人は、2020年度から5年間の中期事業計画を策定し、4月から実施し始めたところです。この計画の内容について触れさせていただきたいと思います。『柔軟性と創造力をもち改革に挑む』という方向性の基に、2つのビジョンを掲げています。1つは、「事業経営強化」です。社会情勢や制度、法律の移り変わりや、利用者及び家族の状況の変化に合わせ、柔軟な思考を持ち、創造力溢れる改革が可能となる組織の構築を目指します。また、地域の社会資源として、信頼を得ながら、成長し続ける体制を構築します。具体的には、経営組織の体制の強化と人材の育成を行って参りたいと考えています。もう1つは、「福祉サービスの充実」であります。利用者や利用者を支える家庭環境の変化や、個々の家庭におけるニーズの変化に合わせた事業を実施し、利用者がより安心して、地域生活を送れるようにします。具体的には、生活介護事業所の拡充や、グループホームの拡充、通所支援、災害時の備えをテーマとして、事業を実施して参ります。5年間という期間で、着実に歩を進められるように、取り組んで参る所存です。今年度も、よろしく願い申し上げます。

最後になりますが、人は、その時に置かれた状況によって、同じ桜や景色を見ても、毎年、湧き上がる思いは違っています。心とは不思議なものです。今年の桜は、長く咲いているのにあまり目に入らず、少し物悲しげに、私には映りました。新型コロナウイルスの影響で、世の中が、感染拡大の終息が見えない、不安や苛立ちに包まれています。こんな時こそ、不確かさに耐えながら、少しずつ、それぞれができることを行っていくことが大切だと感じます。互いに、共感し合う心を大切に、みんなで乗り越えましょう。



支援するということは、利用者の方々の生活が、今日より明日、明日より明後日、1年後、数年後と、より良くなっていくための手助けや提案をすることだと思っています。私たちはその目標に向けて、活動を提供し、手がかりとしてスケジュールや手順書を用意し、変化していく利用者さんに合うものを提供できるよう、アセスメント、モニタリングを繰り返しています。『合う』というのは、理解しやすい、使いやすい、興味を持てるものだと考えます。利用者さんにきちんと『合う』ものを用意することで、提供されたものを受け入れて使うだけでなく、自分にとって必要なもの、自分のものと感じて自ら使用する、さらには活用してくれるようになると思います。今回は、Mさんへの手順書を導入する取り組みや、日々の支援を通して感じたことをご報告したいと思います。

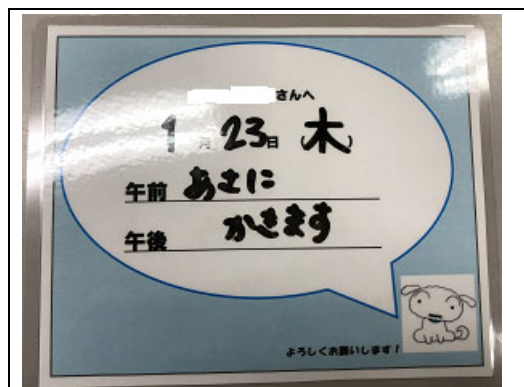
Mさんは現在、私たちも使用するような、時間と事柄を入れたスケジュールを使用しており、作業種と完成数をそこにご自分で書き入れるようになっていきます。午前午後何の作業を行うのか、以前は一日または半日の開始時にお伝えしていました。ある日ふとご本人から、次の日の作業を前日に知りたいと希望が拳がり、前日夕方にお伝えすることにしました。Mさんは何事も早め早めに行動したい方で、(時間に正確、社会人の鑑!) 翌日のスケジュールに日にちだけでなく、作業種も書き入れて準備万端にしたいという気持ちだったのだと思います。

ところが複数の受注作業が重なると、施設全体の完成数の推移を確認した上でMさんに行ってほしい作業が決まるため、前日の夕方にはお伝えできないことが出てきました。その時、明日の朝にお伝えしますと伝えたところ、「何で教えてもらえないの」という表情で納得を得難い様子でした。そこで右の写真のように、ご本人が希望したアニメのキャラクターに吹き出しをつけ、その吹き出し内に作業種を記入する欄を設けたプリントを用意しました。前日夕方に作業種が決まらない時は、「(明日の) 朝にかきます」と書き入れ、まるでキャラクターが言っているかのようにしました。すると、職員が記入したことはその場にいたので分かっているものの、「しーちゃんが明日書くって言うてるね」と乗ってくださり、ご本人も楽し気な様子で、翌日朝を待つことができるようになりました。

Mさんとは普段、言葉のやりとりを主としています。しかし言葉で理解できるから言葉だけで、ではなく、ご本人の気持ちに寄り添い少しの工夫をすることで、安心感も提供できるんだと感じた出来事でした。



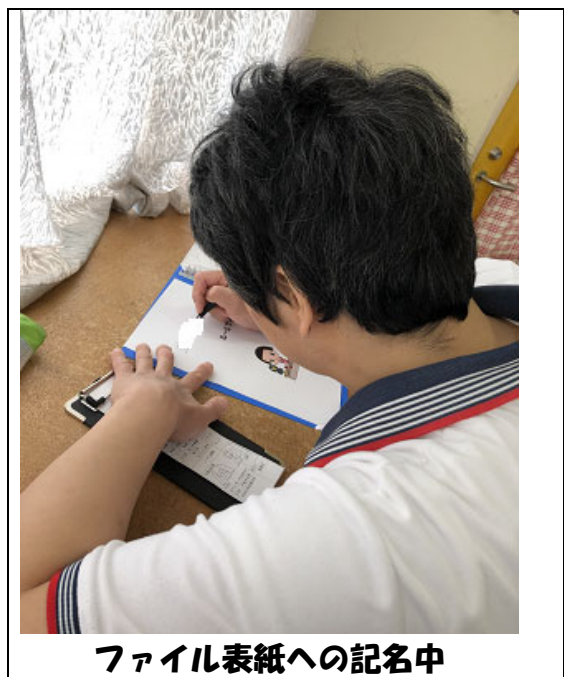
必要な時に、手順書を確認しています



普段は、午前午後をお願いしたい
作業種名を書き入れています

また、Mさんに作業工程をお伝えする時、最初に職員と一緒にすることで意欲的に行うことができていました。しかし時として、失敗が続いたり、受注の間が開くことで、前回出来ていたことをすっかり忘れてしまうことがありました。このような時Mさんは、とても申し訳なさそうに、「ごめんなさい失敗しちゃった。(受注先の) O Oさんに怒られちゃうかな。次は気を付けます」と言ってきます。また、間違っている箇所を職員から伝えた際

も、次の回では意識して修正することができていました。しかし失敗したことで作業への自信を失い、もうこの作業はしないということもありました。そこで、既にひとりで行えている作業についても、写真と文字の手順書を提供しました。手順書を貼る場所をご本人にお任せしたところ、作業機の正面ではなく目に入りやすい場所ではありませんでした。しかし、久しぶりに受注した作業を開始する際、「この



ファイル表紙への記名中

作業はここを気を付けるんだよね」という言葉が聞かれ、該当する手順書を見て、自分で手順を確認している様子が見られるようになりました。さらには自信を失いやらなくなってしまった作業も、手順書を見ながらもう一回チャレンジしてみましようという提案すると受け入れることも出てきました。また最近では、「〇〇さんみたいなプリント、私も欲しい」とご自分で言うこともあります。一見すると、言葉で十分理解しているのにと感じることもありますが、渡したプリントを時々見返しているMさんを見ると、ご本人には必要なものなんだと感じます。

こういった手順書が増えてきて、作業機や周辺に掲示するには手狭になってきたため、ファイルに入れて整理することを職員から提案しました。「このままで良いです」それがMさんの最初の返答でした。ファイルにまとめると、必要な時にぱっと見られないのが嫌なのかなと考え、ページが閉じにくいファイル

をスタンドに開いて立てた写真をお見せし、ファイルでも見やすいことをお伝えしました。すると興味を持ってくれたため、何色のファイルが良いか、表紙の柄は何が良いか、机のどこに置くか等、ご本人と相談しながら話を進めていきました。表紙には、ご本人の名前を記入する欄を設け、ファイルの使用に賛同してもらえらば、記名をお願いしますとお伝えしました。自分で選ぶ、自分で手を加える過程を経ることで、ファイルの使用に積極的になっていく変化が見て取れました。

相手によって場合によっては、職員が考え得る最適な環境を用意しました。きっとあなたにとって心地よいものだから、職員を信じてこの通りやってみてくださいと、伝えた方が良い時もあるかもしれません。ご本人に必要と思われる支援を提供する方法はさまざまですが、一番大切なのは、ご本人が納得し、その支援を自分に必要なものと感じてもらうことだと思います。さらに、これは自分のものと考え積極的に使ってくださいたら、支援者にとっても嬉しいことです。上記で行った支援は日常の中の微々たることですが、ご本人がなぜ必要ないと言っているのか、何を必要としているのかを丁寧に考え、ご本人のペースに沿って提供していく。そんなことも大切にしたいと思います。

さて、これまでMさんについてお話してきましたが、他の利用者の方々にも同じような様子が見られます。

Tさんは、自分の体調について敏感で「頭痛い、熱測る」と訴えることがあります。もちろん、自分の体調は自分が一番分かっていますので、Tさんが感じた異変は大切にしたいものです。しかし一度検温しても、もう一度、もう一度と繰り返し希望が出てきた時、わたげの一日のスケジュールの一番最後に「ねっは家ではかります」というカードをご自分で貼ることで気持ちが切り替わり、行すべき活動に集中できたりします。



Tさんのスケジュール

また、Iさんは、わたげで毎日行うDVD鑑賞を楽しみにしています。通院や避難訓練等、行事によりその時間が設けられない時、DVD鑑賞のっていないスケジュールの下に、「明日の日付（〇月〇日）にDVD観ます」と書き入れることで安心して変更を受け入れることが出来ます。初めは職員が書き入れましたが、以降、別の内容でも、その日にできなかったことについて、明日はやるということを書いて欲しいと職員に要望するようになりました。

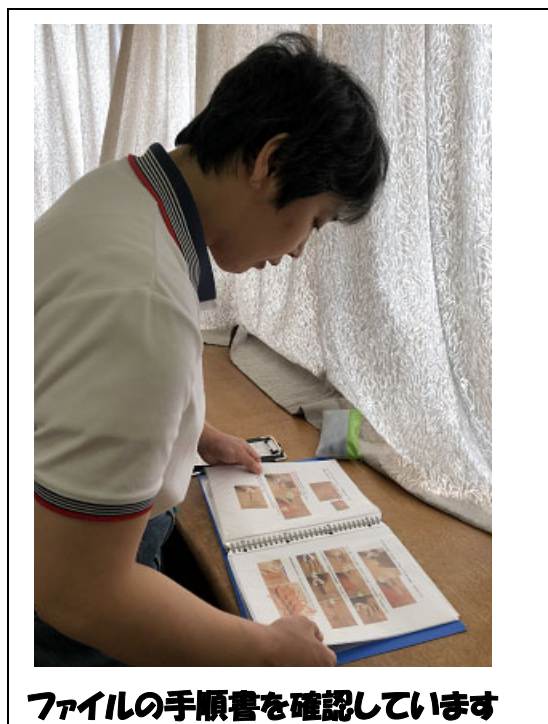
Yさんは、家庭でたくさんの楽しみがあり、毎月のカレンダーに様々な予定を書き入れています。予定が多い分、変更も度々あります。付き添う家族の体調であったり、最近はお店が閉まっていたり営業時間が変わったり。変更することをご家族が本人に伝えと、家庭にあるいくつかのカレンダーの書き換えをご家族に要求します。わたげを休む予定の場合は、わたげの職員に向けて、この日は休みなのでスケジュールに斜線を引いてほしいと身振り手振りで訴えます。ご自宅のカレンダー、わたげのスケジュールすべて変更し終えると、安心したように予定変更を受け入れます。

どれも初めは職員が提供したスケジュールやカレンダーですが、使用し続けているうちに、上記のように、自らで使用方法をアレンジするようになりました。冒頭で『合う』ものを提供できればとお話しましたが、利用者さん自身のスケジュールを活用する力がなせる業であることは言うまでもありません。継続すること、利用者さん自身の経験や努力によって引き出される力を信じ、支えることが支援者の出来る小さなことのひとつだと思います。

ところで、わたげの日課は、複数の受注作業を中心としています。作業の中では、それぞれが得意とする工程を担い、流れ作業で行うこともあります。その順番で行わないと完成しない作業もあり、それをスケジュール上で伝えている方が（右の写真スケジュール）、作業順を変えたいと言ったことがあった時、流れ作業の中で変更できないため、スケジュールで提示したとおりに行って欲しいとお伝えする取り組みも、一方では行っています。



丸内のように、作業ごとに作業種をお伝えしています



ファイルの手順書を確認しています

利用者の方々の多くは、自分に提供されたスケジュールや手順書について、Mさんのような感想や要望は話してくれません。しかし、スケジュールに沿わない、自分なりの使用方法で行ってしまう等、ご本人なりの行動でたくさんの意思を示してくださっていると思います。

私たちは日々、個々の利用者さんに必要な支援を考え、提供することに努めています。ですが『〇〇さんのために』と一生懸命考えているうちに、『支援者がこうすることが、又は、〇〇さんがこうなることが、本人のためになるはずだ』と考え始めている自分に気付くことがあります。日々の中で表面化したことを解決することだけを支援と考えず、利用者のみなさんの気持ちの動きやニーズに気付き、引き出し、寄り添い、可能な限り、ご本人と一緒に必要な支援を考えていくことを利用者主体の支援と考え、日々研鑽に努めていきたいと思っています。

庄司恵美子

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

《2019 年度 決算報告》

たんぽぽの郷 後援会

昨年度、皆様からいただきました会費については、下記のとおり収支でしたのでご報告申し上げます。

(自 2019 年 4 月 1 日～至 2020 年 3 月 31 日)

〈収入の部〉

〈支出の部〉

項目	決算額	項目	決算額
前期繰越金	6,578	寄付金(わたげへ)	405,000
会費	399,000	次期繰越金	578
合計	405,578	合計	405,578

以上会計 常田ちよ子



2019 年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないこと証します。

会計監査 對比地祐子



高橋正子



皆様よりの会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。

編集後記

自閉症者支援の中で、「見通しが持てる生活を一人一人に分かる形で伝える。」このことは、支援の基本として、とても重要なところ。現在、新型コロナウイルスの感染によって続く自粛生活の中、「いつまで自粛し、いつ終息するのか…」という不安な日々。改めて、見通しが持てることの大切さや有難さを感じます。

『陽はまた昇る』という見通しを持ちながらも、新しい『今日』を大切に過ごせればと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、現在もウイルス感染に対して尽力されている皆様方には安全に留意されご活躍されることをお祈りいたします。

編集部 酒井

編 集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21 TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp
